

亥鼻放射線

'90. 6. vol. 10.

千葉大学放射線技師学校同窓会誌

平成2年4月14、15日の土、日曜日にかけて、女子卒業生だけの同窓会が銚子で開かれました。当日はこの3月に退職された田中先生をお招きして、遠くは山形から18名の卒業生が「藤の会」と命名されたこの女性だけの集いに参加致しました。

14日は銚子の民宿「大野屋」で一泊です。各自の都合で結局集合は夜8:30頃となり、それから宴会となりました。自己紹介では、私が大学病院に勤めている関係上、近年の卒業生の様子は伺い知ることはできておりましたが、2回生3回生の方々のお話にはびっくりさせられました。単なるジェネレーションギャップというよりはかつての学生の真面目さとも言えるものではないでしょうか。それは当時の学生をめぐる社会状況そのものの差でありましょうし、又近年一般的に言われる大学生の質にも起因するものもあるでしょう。女子だからというよりは学生そのものが厳しい状況だったようです。

いつもの同窓会の中では男性諸氏ばかりで30周年などの大行事にもなかなか参加できない女性陣ではありましたが、飲むほどににぎやかに学生時代の思い出や現在の仕事の話に花が咲きました。田中先生に一言のコーナーでは、放射線物理で頭を悩まされたり、怒られたり、無茶なことばかりおっしゃる先生ではありましたが、その存在の大きさが今になって改めて感じていると皆さんお話していました。

15日は銚子観光となりました。どういうわけか8回生の川尻さんまでが呼び出されて、にぎやかな女性達といつしよに観光する羽目になってしまったようです。銚子港の市場で買物→犬吠崎の燈台→地球の丸く見える丘展望台→ヒゲタ醤油工場→香取神社のお祭り、小学生の社会見学のコースを田中先生の指揮の元にかつての女子学生達がにぎやかに回りました。なんとヒゲタ醤油では、川尻さんのおかげでおみやげの醤油が更にもう1本いただきました。

今回初の試みである女性だけの同窓会を計画いたしましたが、やはり子育てと遠方の方は参加したくても参加できないという状況のようでした。一泊と言わず食事会だけでもと言う意見もあり、なかなか女性は家庭にはいると仕事以外では外に出るのは難しいようです。

最後になりましたが、田中先生におかれましては、まだ技師学校で講義なさるといふことなので、一層学生には厳しく、又お体大切になさる様お願い申し上げます。

今回世話人である放医研の長沢さん、卒業生である島津の久保田さん、安藤さん、所長さんには大変ご尽力いただきました。紙面をおかりして感謝の辞といたしたいと存じます。どうもありがとうございました。

※参加者 長沢志保子(X2回生)、有馬暁子(X3回生)、小池幸子(X5回生)、横山文子(X9回生)、黒田美智子(放7回生)、平塚千恵(放15回生)、飯田のりえ、伊藤聡美、池上紀子、四反田みえ子(4名、放16回生)、田中千夏(放18回生)、国藤幸江、白石ルミ、森貞美佳(3名、放19回生)、杉田勝美(放20回生)、寺田智子(放21回生)、田中聡子、井内啓子(放14回生)

以上18名

